

経営比較分析表（令和2年度決算）

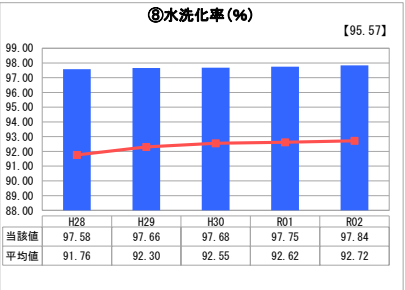
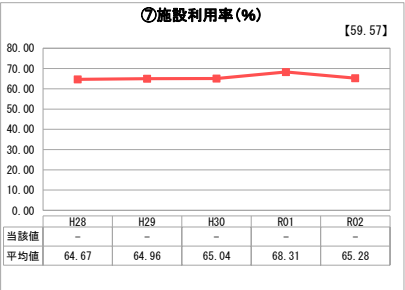
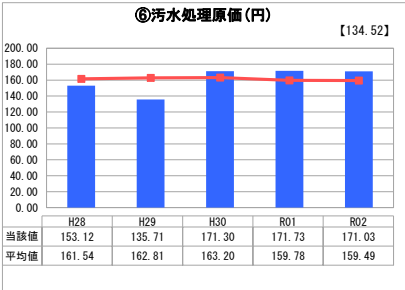
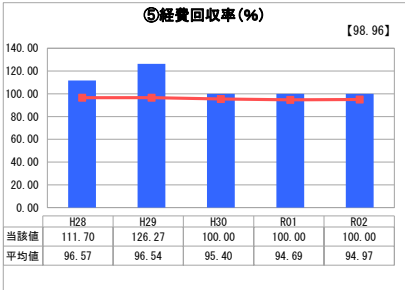
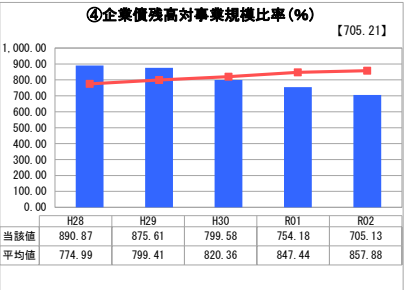
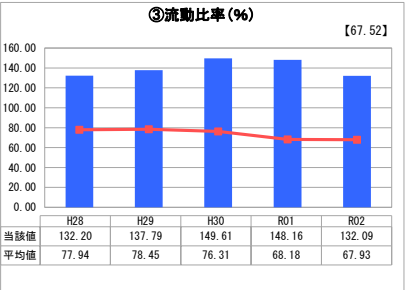
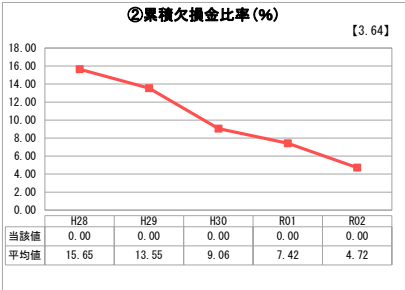
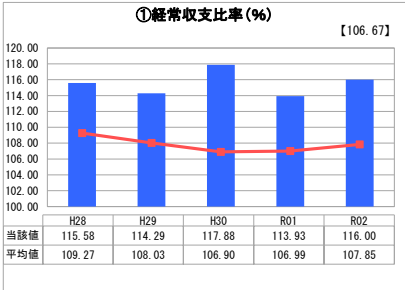
長野県 岡谷市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	58.48	99.62	68.87	3,278

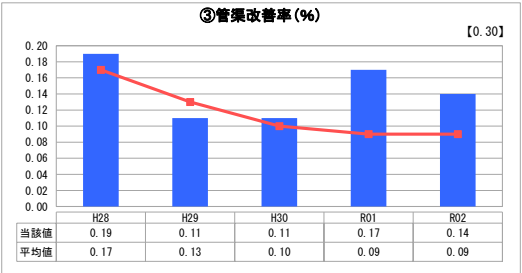
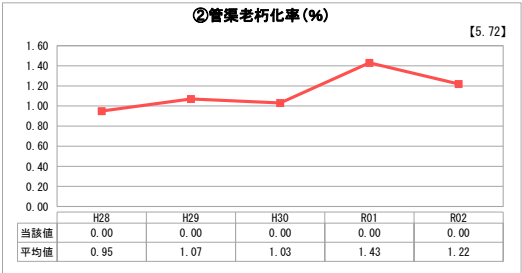
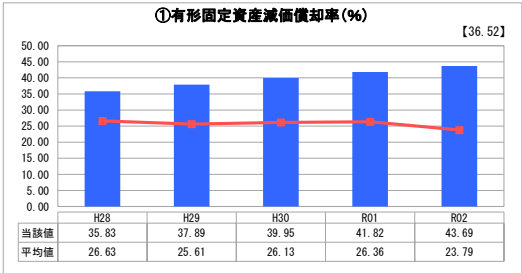
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
48,825	85.10	573.74
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
48,385	14.55	3,325.43

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率：施設の適正管理による経費節減や企業債（借入）の順調な償還により支払利息が減少していることなどから100%を超え黒字が確保されておりますが、下水道使用料収入は減少傾向にあることから、健全経営を維持するため、引き続き経費節減に取り組みます。

②累積欠損金比率：累積欠損金は発生しておらず、健全な状況です。

③流動比率：100%以上を維持しており、1年以内の負債を賄えるだけの支払能力は確保されています。

④企業債残高対事業規模比率：早期から更新投資を進めたことにより高い傾向にありましたが、順調な償還と自立経営を目指し過剰な借入とならない取組を行ってきたことから、近年では減少傾向となっています。

⑤経費回収率：100%であり、下水道使用料で回収すべき経費を使用料で賄えている状況です。老朽化施設の修繕料など維持管理費の増加が見込まれるため、引き続き経費節減や、適正な使用料水準を設定するなど収入の確保に努めます。

⑥汚水処理原価：諏訪湖流域で処理場を運営しているため、岡谷市単独での運営に比べ効率的であり、健全経営につながっています。今後、老朽化施設を更新するための経費の増加が見込まれます。

⑦施設利用率：岡谷市は、諏訪湖流域下水道に接続しているため該当がありません。

⑧水洗化率：100%に近く、高い水準です。引き続き、将来の見込みを踏まえ、費用対効果を検証しながら整備に取り組みます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率：施設の老朽化が進んでいることから、類似団体平均値及び全国平均に比べ高い数値を示しています。

②管渠老朽化率：昭和54年に公共下水道の供用を開始しており、現時点では耐用年数を超えた管渠はありませんが、20～30年後に急激に増加する老朽化管渠の対応を見据え、計画的な対策が必要とされます。

③管渠改善率：岡谷市では早期に長寿命化対策や耐震化対策に取り組んできたことから、管渠の更新・改善は順調に進んでいます。また、平成30年度に策定した今後の管渠更新等のための「下水道ストックマネジメント計画」により、更新の優先順位付けや費用の平準化に取り組んでいます。

全体総括

岡谷市の下水道事業は下水道普及率が99%を超え、建設拡張から現在は維持管理が中心となり、人口減少等に伴う汚水量の減により使用料は減少傾向ですが、適正な維持管理等に努め、健全経営を維持しています。将来的な老朽管の大量改築・更新時期を見据え、適切な資産管理（ストックマネジメント）による計画的な更新・長寿命化や維持管理が必要となるとともに、危機管理面からも、重要な下水道施設の耐震化や豪雨による浸水被害軽減を図る雨水渠整備も必要となります。また、諏訪湖流域下水道の終末処理場でも、老朽化施設の更新や長寿命化への経費負担の増加が見込まれることから、下水道事業全体の更新投資の平準化や効率化、経費節減などの取組が必要となります。今後も、市民の衛生的で快適な生活環境を守る下水道を継続できるよう、「岡谷市下水道事業経営戦略」に基づき、自立した健全経営に努めます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。